

## 特集

## 人生いろいろな場面での転倒と転倒予防

## 特集に寄せて

小林 吉之

国立研究開発法人産業技術総合研究所人間拡張研究センター

日本転倒予防学会の一般社団法人化に伴い、転倒予防学会誌の編集体制もリニューアルされました。これまでも学会誌で特集企画が組まれたことはありましたが、今回からはフィールドエディターによる特集を組んでまいります。今回は、リニューアル後初の企画として、何か特定の層の転倒や転倒予防にフォーカスした内容ではなく、人生の様々なシーンにおける転倒やそのための転倒予防について概観できるような内容を企画し、以下の先生方に執筆をお願いいたしました。

- ・産業技術総合研究所 北村光司先生，東京工業大学 西田佳史先生：子どもの転倒や転倒予防について
- ・労働安全衛生総合研究所 大西明宏先生：労働現場における転倒や転倒予防について
- ・名古屋大学 世木直喜先生，中島宏彰先生，伊藤定之先生，大内田隼先生，飯田浩貴先生，竹上靖彦先生，石塚真哉先生，今釜史郎先生，ナゴヤガーデンクリニック 田中智史先生，刈谷豊田総合病院 両角正義先生，村本明生先生，日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 小林和克先生，愛知医科大学メディカルセンター 関泰輔先生，関西福祉科学大学 長谷川幸治先生：地域在住高齢者の転倒と転倒予防について
- ・藤田医科大学 北村新先生，大高洋平先生：病院内における高齢者の転倒予防について

北村光司先生と西田佳史先生には、子どもの転倒についてまとめていただいております。転倒というと、どうしても高齢者を対象とした研究が多いですが、子どもの事故の中でも最も多く発生する事故でもあります。特に北村光司先生らが行われた、転倒時の口腔への傷害を防止する歯ブラシの開発研究は必読です。

大西明宏先生にご執筆いただいたパートでは、日常生活ではあまり遭遇しないような要因（例えば油污れなど）が原因となっていることや、月ごとの転倒災害の発生件数などが示されております。

世木直喜先生をはじめとした先生方にご担当いただきましたパートでは、1981年から開始された地域住民コホート研究である「八雲研究（Yakumo study）」から得られた知見に基づいて、ロコモティブシンドロームおよび脊椎グローバルアライメントと転倒との関連性などについてまとめていただいております。

北村新先生と大高洋平先生に書き下ろしていただきましたパートでは、入院時のリスク評価から、転倒が発生してしまった後の対策までの一連の方策について、現状、最新の技術、今後の課題をととても分かりやすく書き下ろしていただきました。

改めて言うまでもありませんが、われわれの共通の関心事である転倒は、ある特定の層にのみ生じるものではなく、様々な年代やシーンで発生するものです。私たち個々人が持つ、ある特定の層の転倒に関する専門的な知見のなかには、別の層の転倒にも共通するもの、全く別のものもあると思います。そのような共通性・非共通性を知ることは、自分の視野を広げるためにとっても有効であると考えています。私自身、普段の業務に追われて、どうしても視野が狭くなりがちです。本特集が、改めて転倒について広く考えるきっかけとなれば、企画提案者として幸いです。それでは、「人生いろいろな場面での転倒と転倒予防」をお楽しみください。

連絡先：国立研究開発法人産業技術総合研究所人間拡張研究センター 小林吉之

〒277-0882 千葉県柏市柏の葉6-2-3 東京大学柏Ⅱキャンパス内産総研人間拡張研究センター

TEL：03-3599-8493（直通） E-mail：kobayashi-yoshiyuki@aist.go.jp

受理日：2023. 4. 10